

C 学校設定科目（1年）

1 特別研究

1. 1 課題研究

(1) 研究開発の課題（研究概要）

自然科学のみならず、社会科学、生活科学、人文科学等などの幅広い学問分野から、興味関心のある分野に関する課題を生徒各々に設定させた。その課題に対して、1年を通して様々な取組を行い、生徒の能力向上を図った。

(2) 研究開発の経緯

1学期には、昨年度の優秀発表者の発表を見せ、概要を説明した。その後、夏季休業中に自ら設定した課題について研究に取り組みせ、レポートを作成させた。2学期では、発表の方法について外部講師の講演を聴き、その後、実際に自分の研究内容を発表できるよう、クラス発表会を開催した。冬季休業中には論文作成に取り組みせ、3学期には優秀発表者の全体発表会を開催した。

(3) 研究開発の内容

ア 仮説（ねらい、目標）

本事業は科学への関心や課題設定能力などの「科学リテラシー」及び、コミュニケーション能力や自己理解などの「総合人間力」を促すことができる。

イ 研究の内容・方法

該当教科 SSH国語総合、SSH物理概論、SSH家庭科

対象生徒 普通科1年生徒 8学級

日時場所 事前指導 5月12日(月)本校 体育館及び教室

講演 9月18日(木)19日(金)本校 視聴覚室

クラス発表会 11月5日(水)～7日(金)本校 物理講義室、実験室

全体発表会 3月9日(月)本校 講義室、実験室など

実施内容

事前指導

内容 課題研究の概要・進め方の指導、昨年度優秀発表者の発表

講演

演題 「効果的な発表について」

講師 名古屋工業大学工学教育総合センター
准教授 松浦 千佳子 先生

内容 プレゼンテーションを行う上での基本的な留意点（話す時の姿勢や発声の方法、内容のまとめ方等）についての講義、及び実習。



講演の様子

クラス発表会

内容 5名程度のグループ内で、1人5～7分の持ち時間にて発表。

生徒間での相互評価も実施。

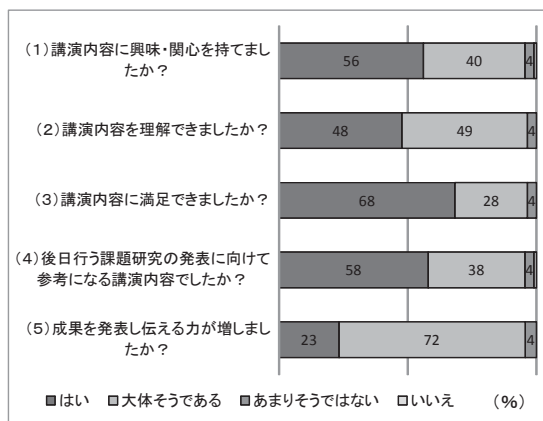
全体発表会

内容 授業時間内に2時限連続で実施。クラス発表会の優秀発表者50名程度を複数会場に振り分け、その他の生徒は希望する会場の発表を聞き、記録をとる。

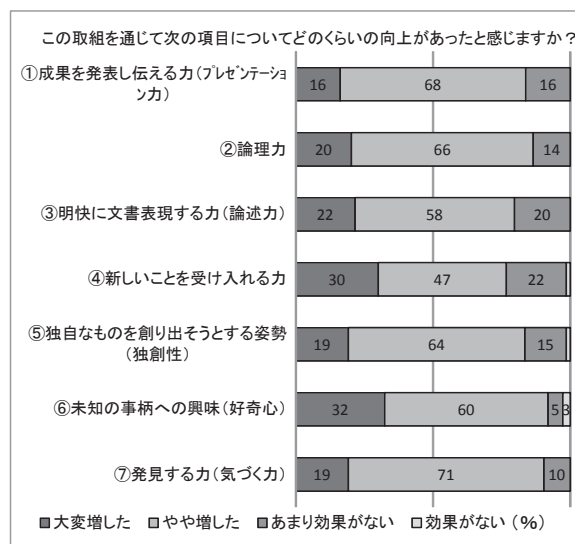


クラス発表会の様子

ウ 検証（成果と反省） 講演



クラス発表会



生徒の感想から

講演

- ・発表の際の姿勢や発声の方法について知ることができて良かった。

クラス発表会

- ・見てもらう人にとってわかりやすく伝えられるように考えてできたので良かった。
- ・以前から興味を持っていたことをとことんやることができ、満足できた。
- ・研究した成果を人に伝えることがいかに難しいか知ることができた。

アンケート結果や生徒の感想から、活動全体を通して、生徒のプレゼンテーション能力の向上や、未知の事柄への興味・関心が高まったことがわかる。幅広い分野からテーマを選ぶことができたので、生徒も積極的に取り組むことができていた。研究内容においては、昨年度から、事前指導の際に昨年度の優秀発表者の発表を行っており、自分で仮説を立て、実験を行い、仮説を検証するという研究内容が多数見られた。しかし、取り組み方に大きな個人差があり、参考文献やホームページの内容を機械的に写しただけで理解できていない生徒もいた。ただし、それらの生徒の中には、課題研究を始めるにあたり、研究困難なテーマを設定している生徒も見られる。次年度はそのような生徒に対する事前指導を充実させていきたい。

また、次年度から理系は3年次に「理科課題研究」を実施する。そのため、生徒に1年次の課題研究の成果を保管させ、3年次に振り返らせることが効果的であると考えられる。よって、昨年度から、生徒それぞれに保管用ケースファイルを配布し、個々の課題研究のレポートや論文、発表の際の資料、相互評価票等をまとめて保管できるようにしている。1年次の課題研究を、3年間の継続した指導につなげ、生徒の能力向上を引き出していきたい。